

増穂だより

M A S U O D A Y O R I

中学卒業式典号



芝浦工業大学柏中学高等学校

<http://www.ka.shibaura-it.ac.jp>

☎ 277-0033 千葉県柏市増尾 700 番地

TEL 04-7174-3100(代) FAX 04-7176-1741

編集 総務部

発行日 令和3年3月22日

印刷所 株横浜綜合写真

さらなる探究の旅へ

— 20 期生卒業 —

2020 年度芝浦工業大学柏中学校卒業式告辞

— 学校長 野村 春路 —

苦悩から歓喜へ

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとう。保護者の皆様、本日はおめでとうございます。本校は、芝浦工業大学の歴史と伝統を踏まえ、1980年にここ柏市増尾の地に創立され、1990年に男女共学とし、1999年に中学校を併設して今日に至りました。これまで柏中学校は約3,000名の卒業生を輩出し、みなさんは中学20期生として、その仲間入りをする日を今日迎えました。

さて、2020年はベートーヴェン(Ludwig van Beethoven, 1770-1827)の生誕250年にあたり、それを記念してこの作曲家にちなんだ演奏会がコロナ禍の中でも開催されたり、テレビやラジオなどでは生誕記念の番組が制作されたりしました。ベートーヴェンと言えば、「楽聖」と呼ばれるようにクラシック音楽を代表する人物であり、「運命」交響曲の冒頭や「第9」交響曲の歓喜の歌を、多くの人が耳にしたことがあると思います。また他の面として彼が作曲家でありながら、聴覚を失った中で作曲を続けたことも知っている方が多いのではないのでしょうか。

ベートーヴェンは、20代後半には極度の難聴となり、作曲家として聴覚を失うという死にも等しい絶望感から、遺書を書き自殺する極限まで追い込まれたことがありました。その状況の中から、常に悩み苦しみながら生きる意欲を持ち数々の名曲を生み出したのであり、特に晩年に辿り着いた境地の高さは、比類のないものと評価されています。

そのベートーヴェンが45歳のころ、彼の音楽を愛する貴族の夫人に送った手紙の中に、以下の一節があります。

「苦悩を突き抜けて喜びに到れ」

Durch Leiden (zur) Freude

《無限の靈魂をもちながら有限の存在であるわれわれ

は、ひたすら悩みのために、そしてまた歓喜のために生まれてきているのです。また、優れた人々は苦悩を突きぬけて歓喜をかち得るのだ、と言っても間違いはないでしょう。》(小松雄一郎編訳『新編ベートーヴェンの手紙(下)』岩波文庫、1982年。27-28頁。)

この言葉こそが、自分の絶望的な状況を受け入れ、その中から喜びを紡ぎ出した彼の生涯を言い表したものであり、彼が生きるための支えとなった金言でありました。

現在の新型コロナウイルスの災禍は世界に広がり、人類全体が苦悩に包まれています。そのような時であるからこそ、ベートーヴェンのこの言葉を励ましの一つとして、人とのつながりや結びつきを見つめなおして、未来を目指したいと思います。

さらに続けると、これから歓喜ある未来を目指すことに関して大切なことは、様々な分野で今までの考え方は通用しないことがでてきていますから、すでにあることを当たり前なこととしてすぐに受け入れるのではなく、疑問を持ちながら学び直すという姿勢であると思います。常に疑問を持って、学びを続けるということが、必ず今の苦悩を乗り越え、喜びに繋がることの一端になると私は信じています。

またみなさんは、もっと周囲のこと、社会の出来事について積極的に知ろうとし、疑問を持つべきです。そして、自分と様々なこととの繋がりに注意を払ってください。そこに多くの人が喜びを感じる世界を創造する鍵があると思います。

中学の卒業式にあたり、みなさんが現在の苦悩を乗り越え未来に向かう心構えについて、お話しをしました。最後になりますが、残念ながら卒業式にご列席いただけない皆様、すなわちPTAの関係者や同窓会の皆様には、この『増穂だより』を通じて、今後とも本校発展のために、お力添えくださいますようお願い申し上げます。

目次

学校長告辞 / 式次第	1 P
表彰 / 校歌	2 P

- 一、開式の辞
- 一、卒業証書授与
- 一、賞状賞品授与
- 一、学校長告辞
- 一、在校生代表の言葉
- 一、卒業生代表の言葉
- 一、卒業生保護者代表の言葉
- 一、校歌静聴
- 一、閉式の辞



創立者有元史郎記念賞・優等賞

D組

今回賞を頂けたことで中学校生活三年間を通じて人として成長することができたことを実感しました。自分の努力の証として心に深く刻んでおこうと思います。振り返ると、この三年間多くの人に支えて頂いたから今の私があります。人間、誰かに頼らなければ生きていけない生き物です。その中で、私が大事にしていたのは真摯に相手と向き合うことです。感謝の意や相手への配慮をもって接することが大事だと日頃から考え行動にうつせるように努力してまいりました。今回の賞に慢心せず、高校生活も精進してまいります。三年間お世話になりました。

千葉県私立中学高等学校協会賞・優等賞

D組

この度はこのような賞を頂くことができ、大変光栄です。僕たちはコロナ禍で今までにないような経験をしました。日常が一変し、自分の真価が問われる中で苦しい思いもしました。ただ、プラスに働いたものがあるとすれば、それは「いつも」そばにいてくれる人の大切さに気付けたことです。特に学校再開後の部活の試合で、芝柏を背負って仲間と共に戦えたときは本当に嬉しかったです。暗いトンネルの中、光る周囲の存在を頼りに、これからも夢へ突き進んでいこうと思います。

芝浦工業大学柏中学高等学校校歌
毎日が喜び

小 椋 佳
川 辺 真
作 詞
編 曲

一、 緑と実り 自然の恵み

抱かれて建つ 白い学び舎

出逢う友は皆 輝く太陽のかなた

無限の宇宙へ 挑む翼を磨く

伝統を築くものたち

新しい道を 拓くものたち

柏の青春 毎日が学ぶ喜び

二、 伸びやかな風 行く大津川

深い想いの 城址公園

集う友は皆 あふれる友情をかかえ

それぞれの夢に 熱い誓いを結ぶ

責任を果たすものたち

自由な心を抱くものたち

柏の青春 毎日が学ぶ喜び

柏の青春 毎日が生きる喜び